

平成23年度学内版 GP 成果報告書

取組名	国際基準に対応したデザイン能力育成教材の開発
実施組織	理学部
実施責任者	吉田孝紀
取組の目標	信州大学の DP にある「専門学問分野における知識・技能を備え、それらを応用できる【専門知識と応用力】」を育成するために、国際基準に対応したデザイン教育教材の開発を進める。同時に、学生のインターンシップ拡充・講演会への参加を進め、理学的専門知識の社会的応用力を育てる。
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	<p>1. 信州大学 DP「専門学問分野における知識・技能を備え、それらを応用できる【専門知識と応用力】」の修得に向けて、どのような方法があり得るか研究した。</p> <p>2. 地質・防災・環境についての問題が提起されている現場を教員が訪問し、実務者から指導と助言を受けた。そしてその問題の解決に際して理学的知識がどのように活かされているのかを研究した。また、その過程で学生の実習教材となり得るテーマを探り、JABEE(日本技術者教育認定機構)の基準に合致した実習題材を見い出して教材化を進めた。</p> <p>3. 地盤や災害問題に関わっている実務者を講師に招き、教員・学生に向けた講演会を開催した。特に東日本大震災に関わる地盤問題に触れてもらい、現在の都市地盤が抱える問題とその解決事例を学んだ(参加者数 30 名)。</p> <p>4. 実業界から講師を招き、教員団との FD を実施した。これによって、デザイン教育の国際的動向やカリキュラム中での位置づけを明確にすることができた(参加者数 10 名)。</p> <p>5. インターンシップの機会を拡充し、学生への滞在費援助を行った。また、学生を石油地質業界の主催する研修会に参加させ、この業界の社会的役割と現在の問題点について学習させた。</p> <p>6. 地下水の分布と利用方法について、実務者による学生向け現場講演会を開催し、理学知識の応用方法や国際的展開について理解を深めた(参加者数 7 名)。</p>
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望	年度末に学外有識者による外部アドバイザー会議を開催し、新たな教材の具体案を提示した。その際の、この取り組みがデザイン能力育成への新たな教育的効果を呼ぶことが期待される、との意見を得ることができた。しかし、今回開発した教材の利用は 24 年度以降となるため、今後の推移を観察した上で、教材の改善や新たな開発を進めることとしたい。